

日本最初の世界地図をつくった

箕作省吾

箕作省吾は、高野長英と同じ時代に活躍した蘭学者で、日本最初の世界地図をつくった人である。

省吾は、一八二一年（文政四年）、水沢の川原小路に武士の子として生まれ、幼いときの名を高之助といった。子供のころから勉強が好きで、十二歳ごろには、高野長英も教わった水沢の医学者である坂野長安先生について漢学（中国に関する学問）や蘭学（オランダ語の書物で医学・天文学などの研究をする学問）を学んだ。

十六歳ごろに江戸に出て、医者いしやの屋敷やしきで奉公ほうこうをしながらさらに学問に励はげみました。その後、高之助から名を改めた省吾は、江戸での勉強では満足できずに京都へ出かけ、摩島ましま松南しょうなんや仁科にしな白谷はくこ等の教えを受けて、蘭学の勉強をさらに深めた。そのかたわらで、関西各地の有名な山や川を訪ね歩き、各地の文化や交通、産業などを見て廻ったことから、地理学ちりがくにも興味きょうみを抱くようになった。

その後、いったん水沢に戻り、坂野先生について学ぶと、

「これは、阮甫先生の学説である。」

と、しばしば講義の中で話されるのを聴き、初めて「箕作阮甫」が蘭学の大先生であることを知った。

省吾は、学問を深く究めたいという強い気持ちを抑えることができず、再び江戸へ行き、阮甫先生に入門を願い出た。しかし、入門するには面接をして、許しを得なくてはならず、なかなか入門を許される人は少なかった。省吾は何としても入門させてもらえるようにわけを話し、面接を受け、ついに入門を許された。

阮甫先生から蘭学の教えを受けるようになって、省吾はどんどんと力をつけていった。それを見ていた同僚や先生たちも、省吾の勉強の進歩に目を見張った。

一八四二年（天保一三年）、省吾の才能と努力にすっかり感心した阮甫先生は、省吾と自分の末娘の『しん』と結婚をさせ、婿養子むこやうしにすることにした。このとき、省吾は二十三歳になっていた。

箕作家の養子になった省吾は、ますます研究に励み、多くの地誌ちし類るいを読み、特に「地理学」の研究を好んで行った。

このようにして、省吾が書き記した本の中で、今日まで残っているものは、『新製輿地全図』（万国世界地図）、『坤輿図識』五卷、『坤輿図識補』四卷である。

『新製輿地全図』は、一八三五年のフランス製の世界地図をもとにして書かれ、一八四四年（弘化元年）に銅製印刷で出版された日本最初の世界地図として省吾の手により生み出された。

この地図は、緯度や経度が入り、五つの気候帯に分けられ、都市などの地図の略号が記され、アジア、ヨーロッパなど五大州は色分けされるなど地球全体が一目でわかるようになってる。

『坤輿図識』は、『新製輿地全図』の解説書として一八四五年（弘化二年）に出版された。これは、『ニューエンホイス』など十四冊もの外国書をもとに書かれ、各州各国の面積や人口、習俗、産業などが記してある。また、『坤輿図識補』は、オランダなどの書物をもとに書かれ、海外の国々の成立や風俗などが記されている。

これらの本の執筆は、洋書の翻訳や、日本の古い書物を紐解くなど、省吾が自分の能力のすべてを傾けて行われた。その無理から『坤輿図識』第二巻を書いているころから肺を病むようになり、時々血を吐き、原稿を赤く染めたこともあった。しかし、周りのものが仕事を他の者に任せるよう忠告しても、省吾はがんとして受け入れなかった。どうしても、自らの手で仕上げたかったのである。

こうして、人生のすべてをかけた仕事を終え、一八四六年（弘化三年）十二月、省吾は二十六歳という若さでこの世を去った。

血を吐いてまで完成させたこれらの本は、当時の日本が開国するか否かで大騒ぎの中であつたので評判となり、大老井伊直弼は常に『坤輿図識』から目を離さなかつたといわれている。また、吉田松陰らの学者も争ってこれを参考にし、ときの政治や外交に大きな影響を与えた。

それぞれの国の様子を正しく伝えたものとして、大変尊重された『坤輿図識』には、どのようなことが書かれているのか、その一例を挙げると、「今から三百七十年前、永正三年（一五〇六年）にコロンブスが新大陸を発見し、アメリカが永正五年（一五〇八年）に探検し、近世になって新大陸の大部分が西洋の国々に入れられた。その結果、原住民がヨーロッパ人から伝染された瘡あるいは、悪い政治、干ばつが続いたため、命を落としたものが多く、天保八年（一八三七年）の三十五年間に原住民が二十分の一に減った。人口三千万。」と書かれている。

『新製輿地全図』については、刊行されて、二、三年後に西国大名が、この地図を基にして地球儀まで作らせていたことは、いかにこの地図が重要性を持っていたかを意味している。現在、この地球儀は、明石市立文化博物館に展示されている。

また、岩手大学にある『輿地全図』は、一本の軸物で、長さが約百

四十三センチメートル、幅三十四・四センチメートルで、中段には地球の表半球と裏半球が描かれている。表半球は、ユーラシア、アフリカ、オーストラリアの大陸、裏半球には、南北アメリカ、グリーンランドなどが描かれている。後段には、地図の見方や両半球の説明があり、この地図の特徴がよくまとめられていて、今の地形と大きな違いがないほどである。

省吾は、短い生涯の中で、だれもができないものを最初に実行した業績が認められている。省吾の墓は、東京都の文京区浄土寺にある。



みづくりしろうごたんじょう
箕作省吾誕生の地（水沢区川原小路）

*参考文献

- 『胆沢・江刺の先人物語』 胆沢・江刺の先人物語の会
- 『少年少女岩手人物風土記』 少年少女岩手人物風土記編集委員会
- 『歴史と観光 みずさわ浪漫』 水沢市 みずさわ観光協会



新製輿地全図（中段）